

## ➤ 14日 火曜

ヨハネ

4:43 さて、二日後に、イエスはそこを去ってガリラヤに行かれた。

4:44 イエスご自身、「預言者は自分の故郷では尊ばれない」と証言なさっていた。

4:45 それで、ガリラヤに入られたとき、ガリラヤの人たちはイエスを歓迎したが、それは、イエスが祭りの間にエルサレムで行ったことを、すべて見ていたからであった。彼らもその祭りに行っていたのである。

4:46 イエスは再びガリラヤのカナに行かれた。イエスが水をぶどう酒にされた場所である。さてカペナウムに、ある王室の役人がいて、その息子が病気であった。

4:47 この人は、イエスがユダヤからガリラヤに来られたと聞いて、イエスのところに行った。そして、下って来て息子を癒やしてくださいるように願った。息子が死にかかっていたのである。

4:48 イエスは彼に言われた。「あなたがたは、しるしと不思議を見ないかぎり、決して信じません。」

4:49 王室の役人はイエスに言った。「主よ。どうか子どもが死なないうちに、下って来てください。」

4:50 イエスは彼に言われた。「行きなさい。あなたの息子は治ります。」その人はイエスが語ったことばを信じて、帰って行った。

4:51 彼が下って行く途中、しもべたちが彼を迎えに来て、彼の息子が治ったことを告げた。

4:52 子どもが良くなった時刻を尋ねると、彼らは「昨日の第七の時に熱がひきました」と言った。

4:53 父親は、その時刻が、「あなたの息子は



治る」とイエスが言われた時刻だと知り、彼自身も家の者たちもみな信じた。

4:54 イエスはユダヤを去ってガリラヤに来てから、これを第二のしるしとして行われた。

ガリラヤの人々はイエス様のみわざを見て信じましたが、この王室の役人は「あなたの息子は治ります。」とのことばを信じました。ここに神様を信じる信仰の姿勢があります。

私たちに求められているのは、確認ではなくて信仰です。見て受け入れるのは確認ですが、見ないで信じるのは信仰です。人はその人の言うことを信用できないときに、証拠を求めるのです。イエス様という方を信用しましょう。そして主のみわざを見ましょう。

息子が治ったのが、この役人に声をかけられたとき、すなわちこの役人が信じた時であることを心に留めましょう。イエス様を信じようという決心のあるそのときに、主にみわざが始まるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

